

日刊 動労千葉

79.6.6
No. 139

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(電話)二二五八・九(公衆電話)三三二二・七二〇七

森山運輸相発言「処分凍結」＝新たな国鉄労働運動圧殺策動!

『処分凍結』は10万人合理化への屈服を狙うもの

六月一日、森山運輸相は、スト処分に関し「国鉄の財政危機を深刻に受け止め労使双方、全力をあげて再建に取組むことを前提として凍結するよう」国鉄総裁に「助言」すること

を明らかにした。国鉄当局も同日、これを受けて「スト処分は見合わせる」ことを正式に発表した。

われわれは、この森山発言が一〇万人合理化をもつてする国鉄労働者への合理化攻撃の一環であることを正しく見抜かなければなら

ない。見せかけの政府・国鉄当局の「誠意」をもってスタンドプレー的に世論を懐柔し、

運転保安無視、公共性無視の軍事輸送と大企業のための国鉄合理化を一挙に押し進めるこ

とを通して国鉄労働運動を圧殺しようとするドス黒い野望をおおいかくすための猿芝居な

のだ。われわれはこのような攻撃を絶対認め

ることはできません。

労組組合の労使協調＝オニマル生推進への野望許すな!

この攻撃の本質は、第一に、「スト処分は厳格に」実害のある処分」と高姿勢をとつ

ていた森山運輸相が、一転して「春闘処分凍結」を打ち出したことは、「赤字国鉄再建」

の名のもとに、労使協調路線を一層強め、国鉄労働者を資本のペースで合理化協調に巻き

込むための策動であり、その狙いは、全通への不当処分と全く同じである。

この攻撃の第二の本質は、労働基本権を認め

めた上での処分凍結ではなく、「この次ストがあつたら考え直さなければならぬ」とい

うまさにと鳴路線をもつて、労働組合を骨抜きにし、右翼的労働運動への再編を促進する策動＝労働者支配のための第二マル生的狙いをもつたアメとムチの施策である。

「安定宣言」許さず 処分実力粉砕・スト権奪還へ!

今日政府・国鉄当局は、新経営改善計画を

作制、「赤字」解消を労働者に転嫁してきて

いる。

55・10貨物合理化を柱に、営業近代化、乗

務員運用の見直し、検修業務の外注化、ロー

カル線切り捨てなどの大合理化攻撃を強行せ

んとしてきている。

こうした情勢の中で、国鉄労働組合は、労

使協調路線に埋没し、「動労本部」暴力集団

に至っては、「貨物安定宣言」に見られる如

く、実力反合同争路線を放棄し、タコ壺論議

に埋没し、55・10を第二の安定宣言をもって

国鉄労働者を資本の側に売り渡そうとしてい

「処分凍結」を再行

国・動労スト処分凍結 田が助言へ

「処分凍結」は10万人合理化への屈服を狙うもの

「春闘」などを対象に

山運輸相は一日前の記者会「国鉄再建のため、労使の協

6月1日 金曜日
昭和54年(1979年)
発行所 読売新聞社
東京千代田区大塚1-7-1
郵便番号 100
電話 (03)242-1111
郵便振替口座東京4-612
読売新聞社 1979年